

出題分析		
試験時間 90分	配点 50点	大問数 4題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]	
<p>【概評】</p> <p>〈現代文〉</p> <p>例年通り評論文 2 題構成。本文量は昨年度と同程度。設問数は合計 13 問で昨年と同じ。最終問題では例年通り制限字数 120～180 字の記述問題が課された。課題文は硬質であり、高度な読解力が試された。設問も (四) の選択肢が例年通り長く、また正解を絞り込みにくいものが含まれていた。</p> <p>〈古文〉</p> <p>本文の分量は例年より大幅に少なく、昨年の半分程度。設問数は昨年と同じく 7 問。趣旨が明確で読みやすい随筆文からの出題で、大まかな内容の把握は難しくない。紛らわしい選択肢も少なく、総じて取り組みやすい問題であった。</p> <p>〈漢文〉</p> <p>日本人の漢文からの出題。本文中には漢詩も含まれている。分量は昨年より増加して 400 字近い長文となり、一昨年と同じく旧字体が用いられた。設問数は昨年と同じく 5 問。内容の把握は難しくないが、設問の解答には精緻な読解が求められ、一部難度の高い設問もあった。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	古文 (随筆) 堺本『枕草子』	特別な客人に対応している際に、そばで無遠慮におしゃべりを続ける人などに対する苦言を述べた文章。空欄補充 2 問、解釈 2 問、内容把握 2 問、内容合致 1 問の構成。	やや易
二	漢文 (逸話) 信太英太郎『淞北夜譚』	呪詛が現実に成功することあり得ると述べ、いわゆる「丑の刻参り」について詳細に説明した文章。抜き出し 1 問、漢字の意味 1 問、解釈 3 問の構成。	やや難
三	現代文 (評論) 真木悠介『時間の比較社会学』	時間の客体化が近代以降の人々の意識と社会にどのような変質をもたらしたかを論じた文章。本文は標準的だが、一部に迷いやすい設問がある。漢字の書き取り 1 問、脱文挿入 1 問、理由説明 2 問、空欄補充 2 問、内容把握 1 問、内容合致 1 問の構成。	やや難

設問別講評			
四	現代文 (評論) 宇野邦一『非有機的 生』	「生政治」が規則の外部にある者を「例外状態」に置くことの暴力性とそれに抵抗する動きについて考察した文章。本文は抽象的かつ硬質。設問も選択肢が長く、また一部に正解を絞り込みにくいものが含まれた。内容把握 4 問、記述問題 (120~180 字) 1 問の構成。	難

合格のための学習法

〈現代文〉

早大法学部の現代文では毎年難解な文章が出題され、段落ごとの内容を丁寧に把握したうえで文章全体の構造を捉えることが要求されている。対策としては、過去問や模試を通して抽象度の高い評論文の演習に積極的に取り組むこと、そして文章全体の論旨や構造に留意しつつ、問題文を 100 字あるいは 200 字程度で要約するなど、日頃から記述の練習を継続して行うことが効果的である。

〈古文〉

法学部は出典の幅が広いため、多様なジャンルの文章に読み慣れておくことが望まれる。今年はお題されなかったが、和歌に関する問題も頻出であるほか、空欄補充は多用され、難解な設問が課される年もある。文法事項の識別や敬意対象の判定は万全に対策しておきたい。過去問や予想問題演習に取り組んで、解法に習熟しておこう。

〈漢文〉

300 字程度のやや長めの文章を読み、素早く大意をつかむ訓練を積んでおきたい。曖昧な本文理解では選択肢の正誤を見極めることが難しい年度もある。句法や重要語をふまえ、主語・指示語を明らかにし、丁寧に本文を読み解くという基本に忠実な学習を心がけよう。また、白文の書き下し文問題や空欄補充問題など、頻出の設問形式には十分慣れておきたい。